

日本教育工学会「大学教員のためのFD研修会」参加報告（2015.3.2）

小林雄志（熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻 特任助教）

2015年3月2日（月）に首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパスにて、日本教育工学会 FD 特別委員会企画の「大学教員のためのFD研修会」（テーマ：「大学授業デザインの方法ー1 コマの授業からシラバスまでー」）が開催された。この研修会は2009年度から実施されており、今回はeラーニングと対面研修を組み合わせた反転研修形式にて実施された(<https://www.jset.gr.jp/work/work150302.html>)。各受講者の専門は看護系や理工系などさまざまであったが、特にキャリア教育に関する授業を担当している受講者が多いことが印象的であった。私は本研修会に受講者として参加し、事前にワークブックやeラーニングコンテンツの予習用ビデオ教材・小テストにて研修に必要な知識を学んだのちに、当日の対面研修においては、ペアワークやグループワークを通して、自身の行っていた授業シラバスの改善を行った。ペアワークやグループワークでは、事前学習の内容をもとに授業の課題や改善案について活発な意見交換・議論が行われたが、こうして明確になった問題点とその改善法については、最終的には研修後に課された最終レポートにおいてアクションプランとしてまとめることとなった。（提出は任意であるが、最終レポートを期限までに提出し、基準に合格することで認定証が送付される。）

本研修会を通して私自身が重要と感じた項目は以下の3点であった。

- ① 学習目標の明確化：私の専門であるスポーツ・体育の授業では（習得主義ではなく）履修主義の傾向が強く、「出席点」を認めている場合が多い。また、学習目標に関してもあいまいに書かれている場合が多い。しかしながら、大学の授業科目である以上は、スポーツ・体育の授業に関しても参加するだけでなくしっかりと「何かが身に着く」ということを打ち出していかなければならないということを改めて感じる事が出来た。
- ② 授業のブロック化による目標と評価の一致の実現：15回の授業回をブロックに分けて、学習者に学んで欲しい内容ごとにそれぞれのブロックの中でその成果を確認できるような構成をとると、学習目標・評価・授業内容が整理しやすくなることを学んだが、この仕組みは学習者にとっても「いま自分が何を学んでいる

か」がわかりやすく、教員側も評価と目標を対応させやすい良い仕組みだと感じた。

- ③ シラバスの重要性：これまでシラバスと言えば「ただの授業案内」という意識であったが、上記のように学習目標や評価方法を明確にし、その目標達成のために効果・効率的に各授業回を組むことは、「よいシラバスを書く」ということに集約されていると感じた。

また、本研修会で非常に良いと感じたのは、授業の設計や改善に関して経験豊富なファシリテータが多数おり、これらの方々から参考となる意見を数多くいただくことができたことだ。我々のプロジェクトで作成する教育パッケージにおいても、こうした授業経験の豊富なメンターとの意見交換を行いながら授業改善していける仕組みをできる限り構築していきたい。